

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	札幌工科専門学校
設置者名	学校法人常松学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業 専門課程	環境土木工学科	夜・通信	1470 単位時間	160 単位時間	
	造園緑地科	夜・通信	870 単位時間	160 単位時間	
	測量情報科	夜・通信	1170 単位時間	80 単位時間	
	環境土木・造園 施工管理科	夜・通信	環境土木コース 420 単位時間 造園コース 240 単位時間	80 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表する。 <a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/">https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/</a> 「カリキュラム・シラバス」に記載
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌工科専門学校
設置者名	学校法人常松学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表する。  
<https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(株)イーエス総合研究所 代表取締役社長	2018年 7月4日～ 2022年 7月3日	経営企画の策定 人事
非常勤	(株)イーエス総合研究所 顧問	2018年 7月4日～ 2022年 7月3日	経営企画の策定
非常勤	(株)イーエス総合研究所 顧問	2020年 7月1日～ 2022年 7月3日	経営企画の策定
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌工科専門学校
設置者名	学校法人常松学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>教育課程編成委員会にて、授業の実施内容や状況の報告を行い、学習成果を検証している。また、学校関係者評価委員会の業界関係者の委員より、業界の要望等の意見をいただいている。それを基に、校長・学科長・事務局を中心に授業計画を立て、各教科担任が共通の様式を用いてシラバスを作成している。</p> <p>シラバスはHPで公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/">https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>授業の出席率(80%以上)、年4回の定期試験、レポート、授業態度などを総合的に判断して評価し、各教科100点満点中60点以上であることを単位修得の条件としている。</p> <p>各教科の評価方法についてはシラバスに明記し、HPで公表している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>定期試験ごとに各教科の評価点を学科学年ごとにまとめ、各教科の総合得点を基として平均点数によって順位付けしている。また、実習教科については課題への取り組み姿勢、成果、レポート等により評価している。 客観的な指標についてガイドブックに明記し、HP で公表している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/">https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校学則において、各学科に定められた授業科目のすべてを履修し、単位を取得した者について卒業を認定することを定めている。また、環境土木工学科及び測量情報科については、国土交通省国土地理院の認定を受けた測量専門養成施設として、測量士補の校内実力（学力）試験に合格することも卒業要件としている。 卒業認定に関する方針についてガイドブックに明記し、HP で公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/">https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	札幌工科専門学校
設置者名	学校法人常松学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	環境土木工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2880 単位時間	1350 単位時間	240 単位時間	1320 単位時間	90 単位時間	0 単位時間
			3000 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		36人	0人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会の意見を受け、学科長を中心に各教科担任が共通の様式を用いて作成している。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業の出席率（80%以上）、年4回の定期試験、レポート、授業態度などを総合的に判断して評価し、各教科100点満点中60点以上であることを単位修得の条件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校学則において、各学科に定められた授業科目のすべてを履修し、単位を取得した者について卒業を認定することを定めている。また、環境土木工学科及び測量情報科については、国土交通省国土地理院の認定を受けた測量専門養成施設として、測量士補の校内実力（学力）試験に合格することも卒業要件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。

学修支援等
(概要) 生活指導、学科指導、就職指導担当教員を配置し、学校全体として組織的な学修支援を行っている。また、HR担任制により、担任と学生が学習に関する問題のみならず学生生活の様々な悩みについて相談できる状況の中で、常に学生・保護者・学校が密接に連携の取れる体制になっている。学校保健計画にもとづき学校保健委員会が設置され、学生の健康管理がなされている。特に、学校医により健康診断をはじめとする健康・保健指導が行われている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	14人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 公務員（北海道開発局、北海道、市町村）、建設会社、測量会社、建設コンサルタント			
(就職指導内容) 担任・学科長による面談、インターンシップ、業務説明会、企業訪問等を通し、学生の進路希望を明確にしている。学生の活動状況に合わせ、エントリーシートの添削や面接練習等を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 測量士、測量士補、2級土木施工管理技士（1次）、2級管工事施工管理技士（1次）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	2人	5.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振、家庭の事情		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任・学科長・校長による面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	造園緑地科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2850 単位時間	1350 単位時間	570 単位時間	1080 単位時間	150 単位時間	0 単位時間
			3150 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		23人	0人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会の意見を受け、学科長を中心に各教科担任が共通の様式を用いて作成している。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業の出席率（80%以上）、年4回の定期試験、レポート、授業態度などを総合的に判断して評価し、各教科100点満点中60点以上であることを単位修得の条件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校学則において、各学科に定められた授業科目のすべてを履修し、単位を取得した者について卒業を認定することを定めている。また、環境土木工学科及び測量情報科については、国土交通省国土地理院の認定を受けた測量専門養成施設として、測量士補の校内実力（学力）試験に合格することも卒業要件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
学修支援等
（概要） 生活指導、学科指導、就職指導担当教員を配置し、学校全体として組織的な学修支援を行っている。また、HR担任制により、担任と学生が学習に関する問題のみならず学生生活の様々な悩みについて相談できる状況の中で、常に学生・保護者・学校が密接に連携の取れる体制になっている。学校保健計画にもとづき学校保健委員会が設置され、学生の健康管理がなされている。特に、学校医により健康診断をはじめとする健康・保健指導が行われている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 花苗・種苗・造園会社			

<p>(就職指導内容)</p> <p>担任・学科長による面談、インターンシップ、業務説明会、企業訪問等を通し、学生の進路希望を明確にしている。学生の活動状況に合わせ、エントリーシートの添削や面接練習等を実施している。</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>樹木医補、自然再生士補、技術士補(森林部門)、測量士補、2級土木施工管理技士(1次)、2級造園施工管理技士(1次)、2級ビオトープ施工管理士、2級造園技能士、2級園芸装飾技能士、生物分類技能検定3級、2級エクステリアプランナーなど</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	3人	15.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任・学科長・校長による面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	測量情報科				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
1年		1470 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	1020 単位時間	30 単位時間	0 単位時間
		1470 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		18人	0人	10人	8人	18人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>教育課程編成委員会の意見を受け、学科長を中心に各教科担任が共通の様式を用いて作成している。</p> <p>入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>授業の出席率(80%以上)、年4回の定期試験、レポート、授業態度などを総合的に判断して評価し、各教科100点満点中60点以上であることを単位修得の条件としている。</p> <p>入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>本校学則において、各学科に定められた授業科目のすべてを履修し、単位を取得した者について卒業を認定することを定めている。また、環境土木工学科及び測量情報科について</p>



<p>は、国土交通省国土地理院の認定を受けた測量専門養成施設として、測量士補の校内実力（学力）試験に合格することも卒業要件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。</p>
<p>学修支援等 （概要） 生活指導、学科指導、就職指導担当教員を配置し、学校全体として組織的な学修支援を行っている。また、HR担任制により、担任と学生が学習に関する問題のみならず学生生活の様々な悩みについて相談できる状況の中で、常に学生・保護者・学校が密接に連携の取れる体制になっている。学校保健計画にもとづき学校保健委員会が設置され、学生の健康管理がなされている。特に、学校医により健康診断をはじめとする健康・保健指導が行われている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	15人 (100%)	0人 (0%)
<p>（主な就職、業界等） 建設会社、測量会社、建設コンサルタント</p>			
<p>（就職指導内容） 担任・学科長による面談、インターンシップ、業務説明会、企業訪問等を通し、学生の進路希望を明確にしている。学生の活動状況に合わせ、エントリーシートの添削や面接練習等を実施している。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） 測量士、測量士補</p>			
<p>（備考）（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	0人	0%
<p>（中途退学の主な理由） なし</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 担任・学科長・校長による面談</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	環境土木・造園 施工管理科 環境土木コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1470 単位時間	870 単位時間	60 単位時間	510 単位時間	30 単位時間	0 単位時間
			1470 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人 ※造園コースと 合わせて	23人	0人	10人	8人	18人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要） 教育課程編成委員会の意見を受け、学科長を中心に各教科担任が共通の様式を用いて作成している。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要） 授業の出席率（80%以上）、年4回の定期試験、レポート、授業態度などを総合的に判断して評価し、各教科100点満点中60点以上であることを単位修得の条件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要） 本校学則において、各学科に定められた授業科目のすべてを履修し、単位を取得した者について卒業を認定することを定めている。また、環境土木工学科及び測量情報科については、国土交通省国土地理院の認定を受けた測量専門養成施設として、測量士補の校内実力（学力）試験に合格することも卒業要件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。</p>
学修支援等
<p>（概要） 生活指導、学科指導、就職指導担当教員を配置し、学校全体として組織的な学修支援を行っている。また、HR担任制により、担任と学生が学習に関する問題のみならず学生生活の様々な悩みについて相談できる状況の中で、常に学生・保護者・学校が密接に連携の取れる体制になっている。学校保健計画にもとづき学校保健委員会が設置され、学生の健康管理がなされている。特に、学校医により健康診断をはじめとする健康・保健指導が行われている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	18人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 建設会社			
（就職指導内容） 担任・学科長による面談、インターンシップ、業務説明会、企業訪問等を通し、学生の進路希望を明確にしている。学生の活動状況に合わせ、エントリーシートの添削や面接練習等を実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2級土木施工管理技士（1次）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20人	1人	5.0%
（中途退学の主な理由） 勤務先の都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任・学科長・校長による面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	環境土木・造園 施工管理科 造園コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1410 単位時間	600 単位時間	180 単位時間	630 単位時間	60 単位時間	0 単位時間
			1470 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人 ※環境土木コースと 合わせて		0人	0人	10人	8人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 教育課程編成委員会の意見を受け、学科長を中心に各教科担任が共通の様式を用いて作成している。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。

成績評価の基準・方法
(概要) 授業の出席率(80%以上)、年4回の定期試験、レポート、授業態度などを総合的に判断して評価し、各教科100点満点中60点以上であることを単位修得の条件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校学則において、各学科に定められた授業科目のすべてを履修し、単位を取得した者について卒業を認定することを定めている。また、環境土木工学科及び測量情報科については、国土交通省国土地理院の認定を受けた測量専門養成施設として、測量士補の校内実力(学力)試験に合格することも卒業要件としている。 入学時にガイドブック・シラバス冊子を配布かつ説明し、学生・保護者へ公表している。
学修支援等
(概要) 生活指導、学科指導、就職指導担当教員を配置し、学校全体として組織的な学修支援を行っている。また、HR担任制により、担任と学生が学習に関する問題のみならず学生生活の様々な悩みについて相談できる状況の中で、常に学生・保護者・学校が密接に連携の取れる体制になっている。学校保健計画にもとづき学校保健委員会が設置され、学生の健康管理がなされている。特に、学校医により健康診断をはじめとする健康・保健指導が行われている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 建設会社			
(就職指導内容) 担任・学科長による面談、インターンシップ、業務説明会、企業訪問等を通し、学生の進路希望を明確にしている。学生の活動状況に合わせ、エントリーシートの添削や面接練習等を実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2級土木施工管理技士(学科)、2級造園施工管理技士(学科)、3級造園技能士			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) なし		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
環境土木 工学科	150,000 円	420,000 円	400,000 円	
造園緑地 科	150,000 円	420,000 円	400,000 円	
測量情報 科	150,000 円	420,000 円	400,000 円	
環境土木・ 造園施工 管理科	150,000 円	420,000 円	400,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/">https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>評価委員の構成                      業界関係者2名、企業等委員2名、卒業生1名、地域住民1名で構成される                      委員会の時期                      年2回(10月、3月)</p> <p>主な評価項目                      1 教育理念・目標、2 学校運営、3 教育活動、4 学修成果、5 学生支援、                      6 教育環境、7 学生の受け入れ募集、8 財務、9 法令等の遵守、10 その他</p> <p>評価結果の活用方法                      学校関係者評価委員会で提示された重要かつ実現性の高い課題を中心に、重点項目                      として順次改善を図っている。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人北海道環境保全技術協会	2022年4月1日 ～2024年3月31日	業界関係者
一般社団法人札幌造園協会	2022年4月1日 ～2024年3月31日	業界関係者
株式会社イーエス総合研究所	2022年4月1日 ～2024年3月31日	企業等委員
株式会社園建	2022年4月1日 ～2024年3月31日	企業等委員
札幌工科専門学校同窓会	2022年4月1日 ～2024年3月31日	卒業生

モエレ町内会	2022年4月1日 ～2024年3月31日	地域住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/">https://www.sapporo-kouka.ac.jp/disclosure/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.sapporo-kouka.ac.jp">https://www.sapporo-kouka.ac.jp</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	札幌工科専門学校
設置者名	学校法人常松学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		-人	-人	-人
内 訳	第Ⅰ区分	-人	-人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				-人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人



(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	一人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	一人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。